

都市再生整備計画（第3回変更）

たけ おおんせんえきしゅうへん
武雄温泉駅周辺地区

さが けん たけ おし
佐賀県 武雄市

平成21年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	佐賀県	市町村名	武雄市	地区名	武雄温泉駅周辺地区	面積	333 ha
計画期間	平成17年度～平成21年度			交付期間	平成17年度～平成21年度		

目標

新しい「武雄の顔づくり」による中心市街地の再生

目標1	温泉と歴史・文化等を融合し温泉観光保養都市として、「武雄の顔づくり」を進めて広域からの集客を図り、交流人口の拡大を図る。
目標2	温泉や歴史的な地域資源を活かし、回遊性のある時間堪能型のにぎわいと活力のある中心市街地の再生を目指す。
目標3	中心市街地へのアクセス道路を改善し歩行者の安全性、快適性の向上を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 佐賀県西部地区の中心都市である本市は、自然に恵まれた健全な温泉地として古くから発展してきたが旅行の需要低迷や観光地間における誘客競争が激化する中、観光産業は衰退傾向である。
- 本市の北部市街地（中心市街地）は観光産業の低迷に加え昨今のモータリゼーションの進展にともない南部市街地へ商店の流出や郊外型大型店の出店が相継ぎ、空洞化や商業者の高齢化が進んでいる。また、道路や駐車場などの都市基盤が未整備で、市民、来訪者のニーズに対応できていない。
- 武雄市中心市街地活性化基本計画において、高架・区画による市街地の整備改善と商業活性化の一体的推進が目標に掲げられている。また、平成18年3月の合併後策定された新市の総合計画においても鉄道高架事業や区画整理事業の早期完成を目指し、九州新幹線長崎ルートの整備を見据えて、本市の顔となる駅及び駅周辺の整備や西九州の交通拠点として、交流人口の拡大を図る方針が示されている。
- 中心市街地の活性化に向けた具体的取り組みとしては、平成12年より「松原商店街振興組合」による街かどガーデニングの設置、駐車場、歩道幅員の考え方等研究活動が展開され、その研究成果を「オレンジ通信」などで啓蒙されてきた。また、NPO法人「まち研武雄」により如蘭塾（国指定）の改修工事や武雄温泉新館（県指定）の復元等まちづくりの提言、実践を行っている。さらに平成16年よりまちおこしグループ「TAKE-O（テイクーゼロ）」が発足、交流人口の拡大による中心市街地の活性化をテーマに企画・立案し実践に結びつけるための自主的な活動が展開され、NPO法人の取得も目指している。
- 都市再生整備計画の策定にあたり、上記の団体と連携を図り計画の内容やその進め方について協議を行っている。
- 現在、武雄市においても景観行政団体の指定を受け、市民と行政の協働による「武雄市の景観づくり」を進めている。
- 地区内には文化・歴史的な施設を多数有しており、これらを連絡する道路等の老朽化が目立ってきており、道路環境の悪化により交通安全の確保と円滑な交通に支障が生じてきている。また生活環境の向上等を図っていくため公共下水道にも平成16年度に認可を受け着工しているが、市街地部の家屋密集地域の施工のため時間を要し、計画的な施工に影響が生じている。

課題

観光地としての機能を拡充する為、温泉の多目的利用や地域資源の発掘活用、PR活用などにより新しい温泉地としての魅力を向上させ、いかに広域からの集客・来訪を促し、中心市街地の活性化につなげるかが課題である。

- 年間127万人の観光客が本市を訪れており、この経済効果を中心市街地へ波及させるため、市街地へ誘導できる新しい時間堪能型の交流拠点や観光機能の充実などの方策が必要である。
- 中心市街地は、古くから温泉を中心に形成された経緯があり、自然や歴史などの地域資源を再発見し活用する必要がある。また、地域資源を活かした回遊性のある魅力的な旅館街や商店街づくり等の取り組みが必要である。
- 本市は西九州の交通の要衝であるが、市街地内の幹線道路は歩道がなく踏切により不規則な交差点も多く、交通安全面や利便性の課題がある。このため、高架・区画による道路拡張整備とともに、中心市街地内において来訪者や市民が安全で快適に歩けることができる公共空間整備が必要である。
- 良好な景観の形成を推進していくために、市街地周辺部も含め一体となった景観に配慮した整備により、通りや観光名所等の地域資源についての魅力的な景観の向上を図り、中心市街地へのさらなる集客効果をねらう取り組みが必要である。
- 道路整備に伴い市街地への誘導と交流を促進していくため、各種事業との一体的な整備により連携を図っていく必要がある。また下水道についても安定的な事業費確保と区画整理事業等の他事業との調整により、計画的な事業の展開を図っていく必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- 新たな都市機能の集積を進め、人と人、地域と地域を結ぶ魅力的な交流拠点都市づくりを行い、一層の拠点性の向上を図る。

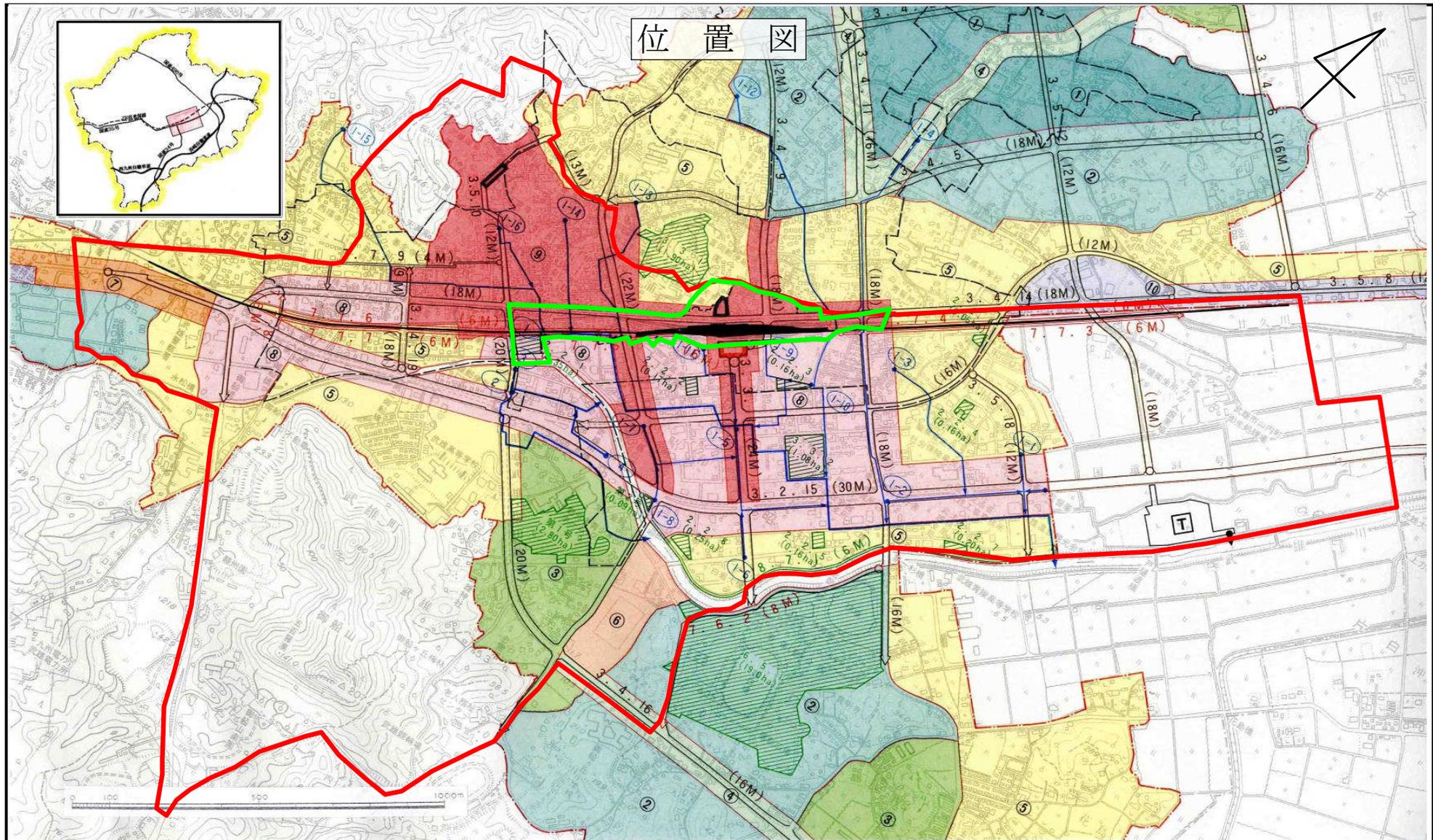
目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度	目標年度	基準年度	目標年度
1.観光客数	千人/年	武雄市を訪れた観光客数 (佐賀県統計年鑑による)	H18年度の高架開通とともに観光交流センターや遊歩道、散策道などの整備、PR活動等の展開により、H19以降は、各年0.97%(H15温泉新館の復元時上昇率)の上昇を見込む。(下降の抑止)	1,268	平成15年度	1,305	平成21年度
2.歩行者等通行量(川端通り)	人/日	憩いの遊歩道(川端通り)の歩行者及び自転車の通行量	鉄道高架による駅付近の機能向上と憩いの遊歩道整備等により20%の通行量増を見込む。	811	平成16年度	1,000	平成21年度
3.交通事故件数	件/年	メイン道路における交通事故件数 (武雄警察署 資料による)	高架・区画の交通環境改善により交通事故件数の半減を目指す。	24	平成15年度	12	平成21年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(交流人口の拡大)</p> <p>・観光客をはじめ広域から鉄道を利用して武雄を訪れる人々の玄関口として、鉄道高架事業による新駅舎や、観光交流センター（高架下）等、新たな「武雄の顔」として、駅関連の施設づくりを進め交流人口の拡大を図る。</p> <p>・中心市街地への来訪は、鉄道を利用し新駅舎からメイン道路を歩くルートと車で国道34号からシンボルロードを通り中心市街地へ向かう2通りの方法がある。このルートの結節点でもある中心市街地の入り口に「街なか広場」を整備し、市民や来訪者が出会う交流の場として、また各種イベント等のメイン会場や中継点となる交流拠点施設として位置付ける。</p> <p>・広域からの集客・来訪を促し、中心市街地を活性化するため、市民が主体となって、温泉の多目的活用と地域資源であるやきもの・自然・歴史・文化などを融合させることにより時間堪能型の体験プログラムの開発や定着を進める。これらの観光開発をもとに、広域から多くの宿泊客や来訪者を受け入れるため、さまざまなメディアの活用や各種のPR活動などの積極的な観光情報発信を展開する。</p> <p>・温泉観光保養都市としてのイメージアップ強化のために下水道整備(単独管路)による環境・衛生の向上に努め、生活環境の改善と都市基盤の確立を目指す。また補助事業との一体的な整備による計画的な事業進捗を図りながら、住みやすく誰でも訪れたいくなるような快適な生活空間を確保する。</p>	<p>高次都市施設 (基幹事業／観光交流センター) 区画整理事業 (基幹事業／武雄北部都市再生)</p> <p>地域創造支援事業 (提案事業／郷土物産展示エリア) 地域創造支援事業 (提案事業／下水道整備) まちづくり活動支援事業 (提案事業／観光資源とプログラム開発事業) (提案事業／観光客誘致事業) (提案事業／広域情報提供事業)</p> <p>武雄北部土地区画整理事業 (関連事業) J R佐世保線武雄温泉駅付近連立事業 (関連事業) 街路整備事業 (関連事業)</p>
<p>整備方針2(中心市街地の回遊性)</p> <p>・市民や来訪者にやさしいまちづくりを目指し、地域資源の活用としてサイン計画の策定と表示板の整備を進める。また、景観に配慮した整備を進めていくために、街なかの良好な景観と町並等についても地域の特性を考慮した看板や標識等の整備を図っていく。</p> <p>・毎年47万人の入湯客が訪れる武雄温泉の新しくなった温泉新館を基点として、市街地内にある長崎街道沿いの田代酒造跡、中村涼庵旧宅や多くの古寺など、歴史を感じながら散策できる長崎街道の整備を進める。また、新しくなった飲食店街と隣接する高架下に「川端通りの憩いの遊歩道」の整備や鉄道を利用する観光、買物、通勤、通学者の自転車移動の拠点として駐輪場を整備し、中心市街地での回遊性を高める。</p> <p>・中心市街地において、武雄の個性を尊重しながら、武雄の存在をアピールできるにぎわいと活力のある美しいまちを目指し、市民が主体的にまちを考え、まちを創るなどの地域づくり活動を支援する。</p> <p>・地域の取り組みとして農家との連携による新鮮野菜や農産加工品などの市を支援する。</p> <p>・景観計画の中での重点地区に含まれる市道については、自然・歴史等の地域資源を活かすとともに中心市街地との連携の強化を図り、回遊性のある道路整備を進める。また、新旧市街地を結び駅舎に通じる幹線的な道路等についても、道路の機能強化を図る整備を進め、来訪者や市民に対し人にやさしい安全で快適なアクセス道路を整備する。</p>	<p>道路 (基幹事業／長崎街道) 道路 (基幹事業／天神崎白岩線、平原梅林線 明神馬場線、一ノ坪4号線 竹下蓬萊線、下西山線、 一ノ坪椏原線)</p> <p>地域生活基盤施設 (基幹事業／中央公園) 地域生活基盤施設 (基幹事業／駐輪場) 高質空間形成施設 (基幹事業／川端通りの憩いの遊歩道) 区画整理事業 (基幹事業／武雄北部都市再生) 地域創造支援事業 (提案事業／サイン計画と表示板設置) 地域創造支援事業 (提案事業／景観形成支援事業) まちづくり活動支援事業 (提案事業／観光資源とプログラム開発事業) (提案事業／観光客誘致事業) (提案事業／広域情報提供事業)</p> <p>武雄北部土地区画整理事業 (関連事業)</p>
<p>整備方針3(安全性・快適性の向上)</p> <p>・J R佐世保線と近接並行している幅員狭小のメイン道路やシンボルロード及び不規則な交差点は高架・区画により広幅員歩道を備えた20m道路に拡幅整備され正常な平面交差点となる。これらの道路は、街なか広場や中央公園と一体的に整備することで市街地へ通じる安全で快適なアクセス道路とする。</p> <p>・メイン道路と並行する川端どおりについては武雄を訪れる人への魅力を向上させる為に、昼間は、高架下と水辺が一体となった「憩いの空間」として、また、夜間は夜の賑わいを演出する「ナイトラウンジゾーン」として各種イベントの開催を交えながら飲食店街と隣接して公共的空間をつくり駅舎から中心市街地へとアクセスする安全で快適な憩いの遊歩道を整備する。</p> <p>・地域の特性に合った道路整備を行うことにより、中心市街地へと誘導していくための各種事業の一体的な実施により連携を図っていき、人にやさしい安全で快適な道路空間をつくっていく。</p>	<p>道路 (基幹事業／天神崎白岩線、平原梅林線 明神馬場線、一ノ坪4号線 竹下蓬萊線、下西山線、 一ノ坪椏原線)</p> <p>地域生活基盤施設 (基幹事業／中央公園) 高質空間形成施設 (基幹事業／川端通りの憩いの遊歩道) 区画整理事業 (基幹事業／武雄北部都市再生)</p> <p>武雄北部土地区画整理事業 (関連事業) J R佐世保線武雄温泉付近連立事業 (関連事業) 街路整備事業 (関連事業)</p>
<p>その他 当該地域</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動 当該地域では、「松原商店会」において、商店街形成の方策や、街の美観、維持管理活動等について、長期にわたり自ら実践研究されている。また、本年度からは、若手を中心とした「TAKE-O」が組織され、交流人口の拡大による中心市街地の活性化をテーマに、特定非営利活動法人（NPO）の設立を視野に入れながら、空き店舗対策、歴史文化施設の有効活用などについて、積極的に研究会活動を行っている。今後もこれらの団体の継続的な活動が期待できる。</p> <p>○街並み形成の誘導を図るための方策について メイン道路の設備や商店街の街並み形成については、景観対策等必要なものからの条例化や協定の制定に向けて、「松原商店会」や「TAKE-O」などと行政で組織する「まちづくり協議会」において協議していく。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において、各種の事業を円滑に進め確実な効果を上げるため、「まちづくり協議会（行政含）」において、計画の内容や進捗状況等について検証し、情報公開に努める。</p>	

都市再生整備計画の区域

<p>武雄温泉駅周辺地区(佐賀県武雄市)</p>	<p>面積 333 ha</p>	<p>区域 佐賀県武雄市武雄町大字富岡、武雄、昭和の各一部</p>
--------------------------	------------------	-----------------------------------



武雄温泉駅周辺地区(佐賀県武雄市) 整備方針概要図

目標	新しい「武雄の顔づくり」による中心市街地の再生	代表的な指標	観光客数 (千人/年)	1,268	(15年度)	→	1,305	(21年度)
			歩行者通行量(川端通り) (人/日)	811	(16年度)	→	1,000	(21年度)
			交通事故件数 (件/年)	24	(15年度)	→	12	(21年度)

